

投句欄 自由律の泉 ②7 〈再掲〉

- |    |                                      |         |
|----|--------------------------------------|---------|
| 1  | 晴天に満月 戦争は愚かだと世を照らす                   | 部屋 慈音   |
| 2  | 怖くない生きた分だけ死んできた                      | 泥谷 文吾   |
| 3  | タオルからフツと朝の香                          | 田中 直心   |
| 4  | 今が終らない杖が歩く                           | 富永 鳩山   |
| 5  | しらないひしらないしひとり                        | 平林 吉明   |
| 6  | 思い出になりそうな母の巾着                        | 佐川 智英実  |
| 7  | 紙きれが鳥になった強い風                         | 富永 順子   |
| 8  | 神話の冤罪をはらす星の自爆                        | 一の橋 世京  |
| 9  | 「観」ている先は生きているのですね                    | 大岳 次郎   |
| 10 | 御神木の枝しか無くても大きい影                      | 木村 浩    |
| 11 | 太陽を抱く繭眠る<br><small>イノチ アタタカナ</small> | 金澤 ひろあき |
| 12 | 北風の立喰おにぎり                            | 野谷 真治   |
| 13 | 明日もまた生きるのか星降る夜を覚めている                 | 久光 良一   |
| 14 | 着ぶくれてほっこり笑顔露の臺                       | 植田 鬼灯   |
| 15 | 店の人に怒鳴っている人の悪く見える                    | 無 一     |
| 16 | 晩冬 移りゆく青竹の閃き                         | アカホリ フキ |
| 17 | 初恋を隠しておきたい月のうら                       | 原 さつき   |
| 18 | つめたくなった手 はなさない                       | 雨 水     |
| 19 | 誰もがしっぽ持っているが我慢している                   | 鈴木 和枝   |
| 20 | 心の絨毯やと家族がのれるだけ                       | 竹内 朋子   |
| 21 | 桜いっぱいなのに 悲しい事ばかりの地球                  | 増田 壽恵子  |

- 22 あーこの空気もう春が来ている 山本 説子
- 23 寝ようとする今日がもつたいない 青井 こおり
- 24 新緑の風に任せて散る覚悟 新山 賢治
- 25 今まさに飛び立つ用意綿毛と私 ちば つゆこ
- 26 一緒に笑える花が咲いた 荻島 架人
- 27 これが姉花びらのような骨片拾う 黒瀬 文子
- 28 通過駅の川べりにも桜満開 平岡 久美子
- 29 視力2・0見えない世界多すぎて 井尾 良子
- 30 鳥の囀り響き渡りハンカチの木揺れわたる 白松 いちろう
- 31 訃報はなふぶき見失った何かをさがす 原 鈴子
- 32 川の流れひばりが上がる知る人もないふる里 佐瀬 風井梧
- 33 初ものもパツクなりしか西瓜食む 湯原 柳泉洞

※以上、前回の「自由律の泉②⑦」に掲載した投句です。

### ● 係より

「第4回自由律の泉賞」の開催に伴い、今回は通常の「自由律の泉」はお休みとさせていただきました。次回は通常通り、皆様の作品一句と、再掲した「自由律の泉②⑦」の作品の感想をお寄せください。左記宛て、同封の投句用紙、またはメールにて。

〈送り先〉〒193・0832 八王子市散田町2・58・4

平岡久美子

メール izumi.jiyuritsu@gmail.com

※投稿先のメールアドレスはこちらになっています。

〈締め切り〉2025年 11月15日

★「自由律の泉」にご投稿いただいた句や感想は、自由律俳句協会のホームページや公式X、機関誌などでも紹介させていただきます。